

## 喰いしん防災コミュニティ部会がいく！

(第26回 2020年7月)



昔から日本の映画やTVドラマを観ていて、どうしても腑に落ちないことがいくつかあった。そのうちの1つが、次のようなシチュエーションだ。

外国へ行っている恋人が死んだという知らせが、日本にいるヒロインのもとに入る。ショックを受けたヒロインは泣き崩れる…… 皆さんも絶対に観たことありますよね？ この後たいてい次の3つの展開のいずれかになる。

- ① ヒロインは他の男と結婚 (or 婚約)。そこへ死んだはずの恋人が帰ってくる。
- ② ヒロインは恋人が忘れられずひとりのままでいる。そこへ死んだはずの恋人が帰ってくるが、記憶喪失になっている。
- ③ 死んだはずの恋人が帰ってくるが、怪我で外見が大きく変わっていたりして、別人の疑いがある。

さて、ここで腑に落ちない点がある。なぜヒロインは、知らせを聞いただけで恋人が死んだと信じてしまうのか？ 喰いしん防だったら、遺体を確認するまでは絶対に認めないぞ！



まだ若かりしころ、「ミッシング」という映画を観た。アメリカの青年が南米で軍事クーデターに巻き込まれ、行方不明になる。父親と青年の妻が現地へ赴き、危険な政情の中で行方を探すというストーリー。結局青年は死んでいたと判明するのだが、愛する人を必死に探す姿に感銘を受け、日本のドラマとのあまりの違いを嘆きつつ、「いや、日本人だって実際にこんなことがあったら全力で探すはず」と自分に言い聞かせた。

その答えを与えてくれたのが、「拉致被害者の会」だった。かの“将軍様の国”に家族を奪われた彼らの何十年にも及ぶ執念の救出活動！ それは「家族への深い愛」の存在を確信させてくれた。

とりわけ横田滋さんご夫妻からは、勇気と信頼を教えてもらった。もしかの国でなければ、ご夫妻は間違いなく自ら足を運んで、何度でもめぐみさんの行方を探されたことだろう。喰いしん防に政府の対応をうんぬんする資格はないが、もっとどうにかならなかったのか。先月、氏の訃報に接したときには、身を切られたような思いがした。

日本のドラマにランポーを登場させて「カづくの奪還」を訴える必要はないが、せめて家族の愛情を感じさせる描写をしてもらいたい。証拠もないのに簡単に信じちゃだめだ！

横田滋さんのご冥福を心よりお祈りするとともに、すべての拉致被害者の1日も早い帰国を望みます。



## ☆新年度の研修始まる

コロナでいろんなことを自粛しても、災害は自粛してくれない…… ということ  
で、どんな時でも備えを怠らないという決意を込めて、今年度も「災害支援市民  
ネットワークしが」の活動が始まりました。第1回目の研修会が、6月27日に  
草津市立まちづくりセンターで開催され、食いしん防も参加してきました。

講師として「NPO法人さくらネット」代表理事の石井布紀子さん  
が、「長野での連携協力から学ぶ」と題した講演を行いました。石井さ  
さんは阪神淡路大震災で被災者となった経験から災害ボランティアに転  
じ、以降20数年に渡って日本中の災害被災地を飛び回ってボランティ  
ア活動に尽力されている方です。



↑石井さん

昨年10月の台風19号で甚大な被害が出た長野市に直後から入り、現在に至る  
まで被災者支援と復興活動に携わっておられます。この台風では関東の首都圏や東  
北に至る多くの地域に被害をもたらしたのですが、ことボランティア活動に関して  
は、「長野の一人勝ち」と言われるほどの成果をあげたのです。その成功の秘訣を  
たっぷり教えてもらいました。その一部を紹介すると……

- ① 県外からのボランティアをあてにするより、地元住民が自ら動く方がよい。
- ② 行政は被災地のニーズに即対応できない。ボランティアセンターが必要な  
ニーズを掘り起こし、異なる団体の協働をプロデュースする。
- ③ 異なる団体が協働するには、具体的な目標と期間を数値で示せばまとめ  
やすい。

今後の課題としては、コロナの影響でマンパワーの大量動員に頼らない支援が必  
要になるとのこと。う〜ん、難しいね。この研修で学んだことを、湖東地区の防災  
にもぜひ生かしていきたいと思います。



千曲川が氾濫した長野市



被災直後の惨状

大量のボランティア  
ほとんどが県内から



## 今後の活動予定

- 7月30日 「湖東地区防災ネットワーク（こと防）」全体&ブロック会議  
8月24日 「災害支援市民ネットワークしが」第2回研修

※ 出前講座の申し込み受け付けます！



## 勝手にQ&Aコーナー

Q：「県外からのボランティアをあてにするより地元住民が……」とありますが、被災して大変な状況なのに、ボランティアなんてできるんですか？

A：県内すべてで大きな被害が出るわけではないので、比較的小さな被害ですんだ地域の方が、大変なところを助けに行くということです。「こと防」も、湖東地区内における助け合いを目指しています。

Q：いつもくだらないことしか書いてないのに、シリアスな社会問題を取り上げるなんて、どこか具合でも悪いんですか。

A：食いしん防のことを何か誤解してませんか。ものすごい悪意を感じます。まあ、「くだらないこと」ってのは当たってるけど……

楽しい質問、お待ちしております！



(文責：こじまっちょ)



←なぜ「はいからさんが通る」なのか？  
読んだ人ならわかるはず！